

令和6年度山小屋アンケート調査結果

資料 1 - 2

1 調査概要

調査目的	来訪者管理計画における指標・水準の見直しについて、計画策定当時にはなかった新たな課題(多様な文化的背景をもつ国内外の登山者の増加)が顕在化している問題に係る受け入れ側の実態調査
調査対象	・ 4 登山口の山小屋 全 41 箇所 ※管理者 3 箇所重複のため、対象は 38 の山小屋管理者
調査日時	・ 令和 6 年 9 ～11 月 (閉山期)
調査手法	・ 静岡県、山梨県両事務局による調査票の配布及び回収 ※分析を公益財団法人日本交通公社に委託発注
調査内容	Q1 回答者名及び活動する登山口／山小屋名 Q2 今夏の登山客の行動マナーについて、特にコロナ前に比べ改善されたと感じる内容はあるか (①ある／②なし) Q3 Q2 の具体的な内容 (自由記述) Q4 今夏の登山客の行動マナーは、許容できるか？ (①許容できる／②やや許容できる／③どちらでもない／ ④あまり許容できない／⑤許容できない／⑥わからない) Q5 対応が必要な登山客の属性と行動 (自由記述)

2 調査結果

(1) アンケート調査の回収数と回収率

登山道	山小屋数 (調査対象数)	回収数	回収率
吉田口	1 6	1 0	63%
富士宮口	8	8	100%
御殿場口	5 (管理者 2 者重複のため対象数 3)	3	100%
須走口	1 2 (管理者 1 者重複のため対象数 11)	1 1	100%
合計	3 8	3 2	84%

(2) 各項目の分析

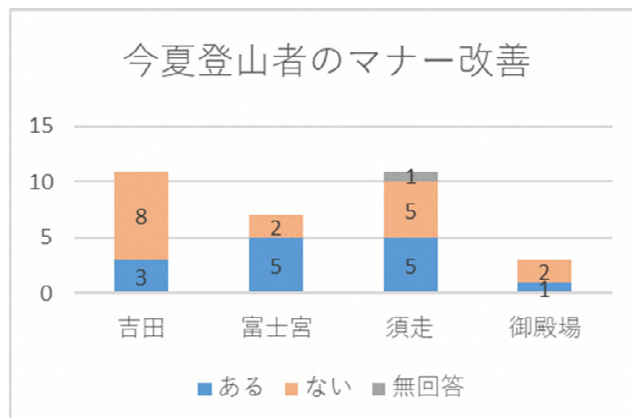
Q1 回答者名及び活動する登山口／山小屋名

(省略)

Q2 今夏の登山客の行動マナーについて、特にコロナ前に比べ改善されたと感じる内容はあるか（単一回答）

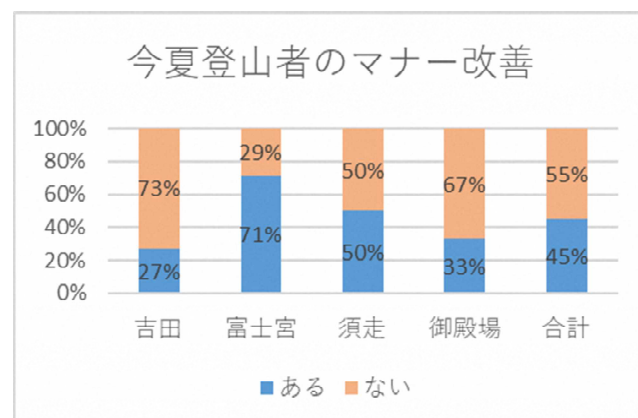
回答数

	山梨	静岡			合計	回答数
	吉田	富士宮	須走	御殿場	合計	
ある	3	5	5	1	14	32
ない	8	2	5	2	17	
無回答	0	0	1	0	1	



比率

	山梨	静岡			合計	回答数
	吉田	富士宮	須走	御殿場	合計	
ある	27%	71%	50%	33%	45%	100%
ない	73%	29%	50%	67%	55%	



※無回答除く

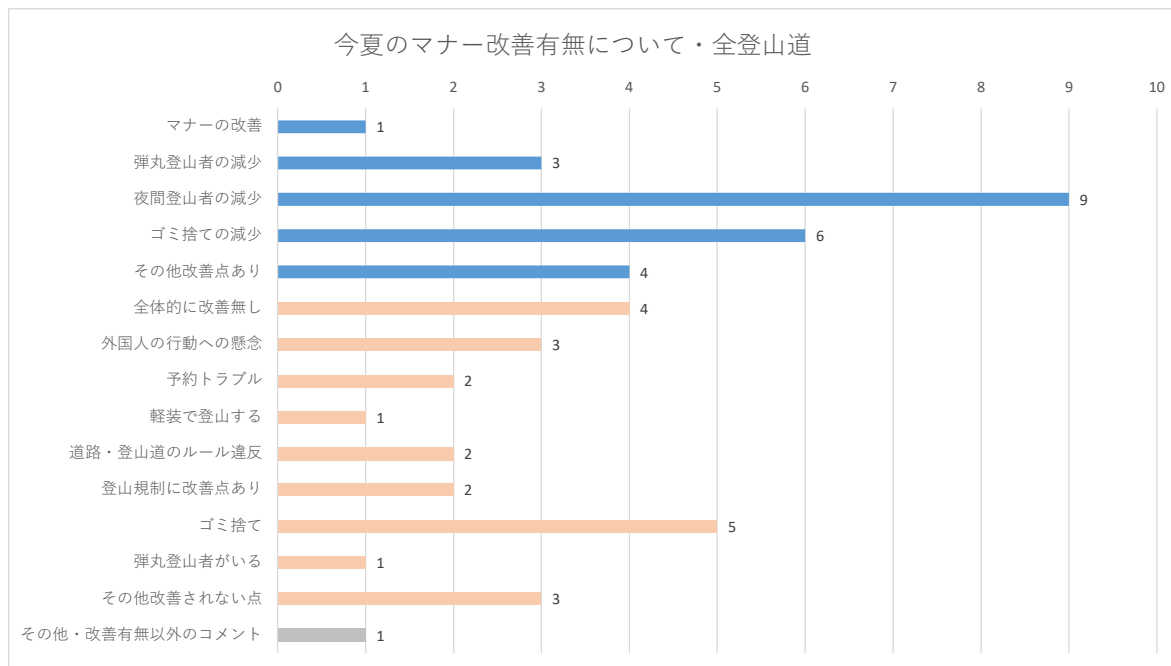
・全体をみると、改善したと感じた回答した山小屋件数が14件(45%)に対し、改善なしと感じた回答者は17件(55%)。

・登山口別にみると、吉田口では改善点が「ない」と回答する山小屋数の割合が約7割と他の登山道に比べて高い。一方で、富士宮口は「あり」が約7割と、肯定的な意見が他と比べて多数となっている。

Q3 Q2 の具体的な内容（自由記述・複数回答可能）

回答山小屋数：24件

回答山小屋件数	回答数	合計
吉田口	8	24
富士宮口	6	
須走口	7	
御殿場口	3	



	回答数	Q2.改善あり	Q2.改善なし
マナーの改善	1	0	1
弾丸登山者の減少	3	2	1
夜間登山者の減少	9	6	3
ゴミ捨ての減少	6	6	0
その他改善点あり	4	4	0
全体的に改善無し	4	0	4
外国人の行動への懸念	3	1	2
予約トラブル	2	0	2
軽装で登山する	1	0	1
道路・登山道のルール違反	2	1	1
登山規制に改善点あり	2	1	1
ゴミ捨て	5	1	4
弾丸登山者がいる	1	0	1
その他改善されない点	3	1	2
その他・改善有無以外のコメント	1	0	1

※複数回答可。自由記述の回答を内容ごとにアフターコーディングを行い集計。

※「●●は改善したが、××は問題である」といった記述の場合は、改善があった項目・改善が見られない項目2つについて言及があるとみなし、それぞれの項目に1件ずつカウント。

・改善があった点として、「夜間登山者の減少」、改善が見られない点としては「道路・登山道のルール違反」「ゴミ捨て」に4件の回答があった。

・改善傾向にあると回答した合計21件（グラフ青部）に対し、改善がないとする意見は24件（グラフオレンジ部）であった。

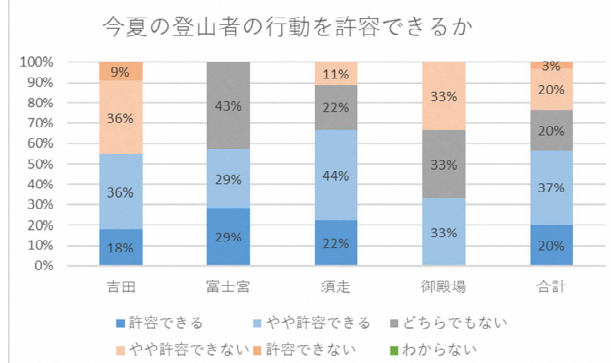
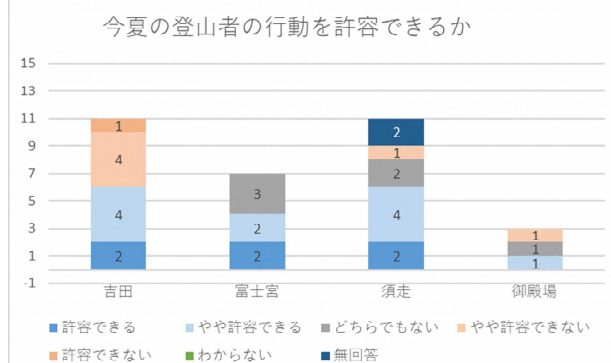
・吉田口では、改善した点・改善が見られない点双方において一番多数の項目の回答があった。

Q4 今夏の登山者の行動マナーは、許容できるか？

回答数	山梨 吉田	静岡 富士宮	須走	御殿場	合計	回答数
許容できる	2	2	2	0	6	32
やや許容できる	4	2	4	1	11	
どちらでもない	0	3	2	1	6	
やや許容できない	4	0	1	1	6	
許容できない	1	0	0	0	1	
わからない	0	0	0	0	0	
無回答	0	0	2	0	2	

比率	山梨 吉田	静岡 富士宮	須走	御殿場	合計	回答数
許容できる	18%	29%	22%	0%	20%	100%
やや許容できる	36%	29%	44%	33%	37%	
どちらでもない	0%	43%	22%	33%	20%	
やや許容できない	36%	0%	11%	33%	20%	
許容できない	9%	0%	0%	0%	3%	
わからない	0%	0%	0%	0%	0%	

※無回答除く

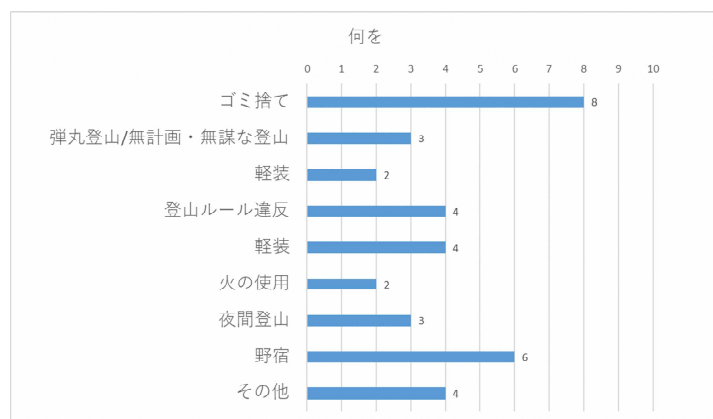
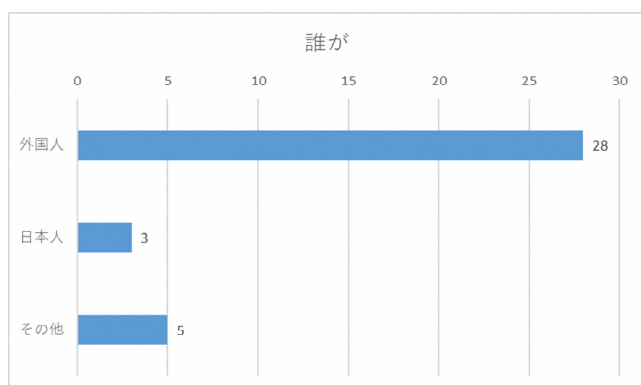


- ・全体的な割合でいえば、「許容できる」「やや許容できる」が32件の回答中17件と半数以上を占める。
- ・登山道別にみると、吉田口は肯定的な意見が半数以上に達する一方、「許容できない」「やや許容できない」といった否定的な意見も5割弱を占める。富士宮口は、中立的な「どちらでもない」といった意見が半数近くを占めるなど、登山道ごとに意見の異なりが見える。

Q5 対応が必要な登山客の属性と行動/

どのような登山者が（ ） といった行動（ ）をしたか（自由記述・複数回答）

回答山小屋件数	回答数	合計
吉田口	7	24
富士宮口	6	
須走口	8	
御殿場口	3	



※複数回答可。自由記述の回答を内容ごとにアフターコーディングを行い集計。

- ・属性については、圧倒的に「外国人」とした回答が多い
- ・行動については、「ゴミ捨て」が8件、「野宿」6件、「登山ルール違反」4件など富士山中における行動・マナーに対するものと、「軽装」(4件)など事前装備に係る内容が多い。
- ・主語と述語を合わせた内容で頻出したものとして、上位3件は「外国人登山者のゴミ捨て」(4件)、「外国人登山者の軽装」が(3件)、「外国人登山者の野宿」(3件)であった。

(3) 総括

①改善点の有無について

- ・登山道全体をみると、無回答を除いた全31件の回答のうち、コロナ禍以前と比べてマナーが改善したと回答した山小屋の割合は改善ありが14件(45%)、改善なしが17件(55%)を占めた。
- ・これらの回答は登山道ごとにみると結果が大きく異なっている。例えば吉田口では改善なしが7割近くを占める一方、富士宮口では改善ありが7割を占めた。
- ・自由記述を見ると、様々な問題点について多数の意見が上がる一方、改善点として夜間登山者の減少について言及する山小屋が多くみられた。

②許容度について

- ・登山道全体を見ると、無回答を除いた全30件のうち「許容できる」「やや許容できる」が17件(57%)と約6割を占めた。残り約4割については、「どちらともいえない」が6件(20%)、「やや許容できない」「許容できない」が7件(23%)を占めた。
- ・許容度についても登山道ごとの違いが大きい。例えば吉田口では「どちらともいえない」などの中立的な回答はなく肯定的な意見・否定的な回答が半数ずつを占め、意見が二分している。一方で、静岡県側はどの登山口でも「どちらともいえない」が2割以上を占め、吉田口と比べていずれも留保的な意見が目立った。

③対応が必要な登山者について

- ・対象者については、外国人登山者への言及が多数を占めた。
- ・行動については対象以上に回答が分散したが、「ゴミ捨て」といったマナーの他、「野宿」「火の使用」「軽装」など安全面についての懸念が多かった。

考察

→改善点の有無や許容度といった数値については、登山道ごとの違いを考慮する必要がある

→自由記述をみると、「外国人登山者」のふるまいについての関心が高いことが見て取れる。行動としては、火の使用や軽装など安全面に係るものと、ゴミ捨てやコミュニケーションなどマナーに大きくかわるものについての懸念が散見される。

3 第5回小委員会における意見

- ・今回の調査のみをもって割合や%で指標を設定することは困難であるが、数年続けた上でデータを分析してみてもどうか。
- ・質的なデータなので指標化するのは難しく、継続的に調査分析しないと評価しづらい。
- ・「ゴミ捨て」「野宿」「火の使用」などのルール・マナーに関する項目については、分かりやすく定義を行った上で、登山者に対する周知・広報等を確実にやっていくべき。

4 方針案

- ・今回の山小屋を対象とした調査では、母数（対象の山小屋数）が限られており、定量的に全体の傾向を把握するのに限界がある。
- ・令和6年度末の水準改定における指標への反映は難しいが、本調査を継続的に実施し、必要に応じて設問の見直し、再検討を行い、学術委員会の場で報告することで傾向把握に努めていく。